

会 議 録

会議の名称	令和6年度第7期第1回戸田市中心企業振興会議
開催日時	令和6年5月29日(水) 午前10時～午前12時
開催場所	戸田市役所 5階 501会議室
会長氏名	結城剛志
出席者氏名 (委員)	金子秀一、徳永光昭、富岡聡子、丹野一城、黒井英樹 廣瀬倫理、高橋一能、安田裕美、渡邊祐、今井祐之、
欠席者氏名 (委員)	松浦睦子、土肥悦子
説明のため出席した者	戸田市商工会事務局 入江次長
事務局	香林部長、野崎室長、長谷川課長、柄澤主幹、高橋副主幹、吉崎主事、荒生主事
議題	<p>【議題1】 戸田市経済戦略プランにおける令和5年度の実績確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全48施策における目標数値(KPI)に対する実績値及び進捗状況 <p>【議題2】 戸田市の雇用対策の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回会議での各委員発言・意見に対する事務局追跡調査等の報告 ・意見交換 <p>【その他】</p>
会議結果	会議録のとおり
会議の経過	会議録のとおり
会議資料	別紙のとおり
その他	傍聴人なし 廣瀬委員については、オンラインでの参加
議事録確定	令和6年6月21日

事務局

開会あいさつ

本日の事務局は、環境経済部部長の「香林」、経済戦略室長の「野崎」、経済戦略室課長の「長谷川」、経済企画担当の「柄澤」「高橋」「吉崎」「荒生」の6名で務めさせていただく。

配布資料（8点）

- 1) 戸田市中小企業振興会議資料
- 2) 経済戦略プラン（冊子）および戸田市経済戦略プラン進捗管理表(R5)（A4白黒）
- 3) 前回会議での各委員発言・意見に対する追跡調査等報告（A3白黒）
- 4) ポリテクセンターセミナー案内（A4白黒）
- 5) 技能検定受検案内（A4白黒）
- 6) 令和元年度提言書
- 7) その他案件資料
- 8) 第7期戸田市中小企業振興会議委員名簿

事務局

（*委員出席状況について報告）

本日の委員出席状況だが、松浦委員、土肥委員から欠席の連絡を受けており、委員13人中10名の出席となっている。広瀬委員については、オンラインでの参加となる。

戸田市中小企業振興会議規則第5条第3項で定める半数以上の出席であり、会議は成立することをご報告する。

なお、開会に先立ち、今回初めて出席される 渡邊 祐（わたなべ ゆう）委員をご紹介させていただく。渡邊委員においては、松井委員に代わり、今年4月に新たに本会議の委員となった。委嘱状を机上に配布させていただいているので、渡邊委員は委嘱状のご確認および一言ご挨拶をお願いします。

渡邊委員

ご紹介いただいた埼玉県南部地域振興センター副所長の渡邊である。前任の松井からの引継ぎになるが、私はこの4月の着任で、3月まではさいたま新都心にある埼玉県男女共同参画推進センターにいた。産業労働分野については不慣れではあるがよろしく申し上げます。

事務局

それでは、本日の流れに従い進めさせていただきます。

なお、戸田市中心企業振興会議規則第5条第5項の規定において、「議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。」とされており、前々回の会議で承認いただいたことから、今回も戸田市商工会事務局職員に会議にご出席いただいている。

(商工会事務局 挨拶)

ここからの進行は、戸田市中心企業振興会議規則第5条第2項の規定により、結城会長にお願いする。

【議題1】戸田市経済戦略プランにおける令和5年度の実績確認

結城会長

それでは、只今から、議題1「戸田市経済戦略プランにおける令和5年度の実績確認について」審議を進めていきたいと思う。

まず、事務局から説明をお願いします。

事務局

事務局より説明【柱1企業の魅力や価値を高める】

結城会長

戸田市の施策の進捗管理について、柱ごとに審議いただきたい。資料2ページから11ページの内容について説明いただいた。委員の皆さんの実感を踏まえ、施策がどのように役立っているかご意見をいただければありがたい。たとえば皆さんが実際にお使いになられた施策などはあるか。安田さんはいかがか。

安田委員

ふるさと納税の返礼品についてはかなり上がっているようであるが、これは個別の訪問に対しての成果がでてきているということか。

事務局

そうである。前年度は企業や商店など含め、返礼品を出しませんかということで個別に営業活動をさせていただき、そのところでかなり賛同していただける商店が多かったというところで、だいぶ増やすことができた。

安田委員

ちなみに、どれくらい売り上げにつながっているというか、事業者にとっての販路として考えたときの成果はどのようなイメージか。

事務局

実際に寄付額としてみると、令和4年度が約1,800万円に対して、令和5年度は約6,000万円の寄付があり、かなり寄付額自体も増額している。返礼品については寄付額の3割までの価格ということで制限があるため、6,000万円の3割程度、2,000万くらいは市内企業に還元されているかなというところである。

安田委員

色々と相談を受けることもあるので、販路として一つこれからも紹介できればと思う。

結城会長

他に何かあるか。

富岡委員 7番のビジネス交流会についてだが、ここには8月3日と書いてあるが今年も8月に行うのか。やっていた様な気はするが、どこで告知されたのか聞きたい。あと、どんなことをしているのか。1時間くらいなのか聞いてみたいと思ったのだが、よいか。

事務局 ビジネス交流会については、商工会と戸田市で共催のような形で行っており、第一部が戸田市、第二部が商工会主催の交流会になっている。第一部では、商工会の実施事業でもある戸田ブランドの認定事業における認定事業所に対して、戸田市長による認定交付式を行い、その後、経済戦略室主催による事業者向けのセミナーを実施している。

昨年はSDGsをビジネスにどう活かしていくのかというテーマで講演を行ってもらい、今年度の日程としては、7月17日の水曜日を予定している。

参加の募集に関しては、商工会が主で請け負っており、商工会員には「YOUR」が届くと思うのだが、6月号の挟み込みでチラシが入っているため、そちらから申込みをしてもらえればと思う。交流会の費用が一人1,000円で参加できるので、ぜひお願いできればと思う。

また、今年のセミナーの内容は雇用に関係するテーマであり、小規模中小企業の皆様に役立つ雇用をどのように囲い入れていくのか、こういった事に悩んでいて、こういう事で解決できるといったことなど、そういう分野のプロの方を呼ぶ予定である。どうやって若手を集めていったらいいのか、どうやったら離職防止ができるのかとか、その辺のノウハウを教えてもらうようなセミナーの内容になっているので、ぜひ周りの企業の方にもご紹介いただき、チラシを見て申込みしてもらえればと思う。

富岡委員 チラシというのは「YOUR」だけか。

商工会 会報とホームページである。

事務局 戸田市の広報はお知らせ欄のみであり、現物として届くのは「YOUR」だけになる。

富岡委員 承知した。私も商工会に行くので、そういえばどこかでやっていたなという感じはあるが、もう少しいろいろな人に届くといいのかなと思ったので、SNSとかそういったもので発信ができたらいいいのではと思った。

丹野委員	4番の戸田ブランドの創出と魅力アップについてだが、戸田ブランドに認定された事により事業者の方から、例えば売上が上がったとか、定量的な数値でなくてもお客さんに喜んでもらったとか、そういう声があるのかが一つと、二つ目がブランドは認定数が増えすぎると価値が下がってくるのではという懸念も持っているが、食品に対しては認定数いくつだとか、製品に対しては認定数いくつという件数が決まっているのか。あとは一回認定されたら永久に認定なのか、それとも5年間は認定期間と決まっていて、また更新で新たな申請が必要なのか、というところを教えてもらえたらと思う。
商工会	更新の方は5年毎にやっている。登録されている商品については商工会の方でも、先ほど話が挙がっていたビジネス交流会であったりとか、9月に会員交流会があるので、その中で商品を実際に提供させてもらったり、あるいは商工会の方で、商工会の事業になってしまうが、そういったところの来賓の方々に対するお土産だったり、そういったところでPRはさせてもらっているので、少なからず登録している企業にとっては、なんらかのメリットではないが、周知にはなっているのではないかと思われる。
事務局	補足だが商工会で作成しているノートの中に、推奨品戸田ブランドの商品も掲載されており、商工祭やイベントに啓発品として配布している。市内の子供たちや市民の方に届くような形で周知の協力をしてもらっており、これを手にとった皆さんが戸田ブランドを知って、実際にお店に行って何かしらを買うという、きっかけが生まれるというのも一つのメリットと思っている。
結城会長	それでは、また気づいたことがあったら振り返って意見等お願いしたい。では柱2に進みたい。事務局から説明をお願いします。
事務局	事務局より説明【柱Ⅱ 多様な人材による産業振興】
結城会長	柱Ⅱ人材育成、産業振興に関する施策のグループの説明であった。質問・意見等をうかがいたい。
今井委員	資料の12、13ページ、起業に関する取り組みの実績についての報告で、実績結果を見ると、最近起業に対する関心が高いと思われる。戸田市の支援や商工会のPR、支援体制があってこれだけの数字になっていると思われる。我々も起業という部分で手伝いをさせてもらっている機関としては、非常にこれからも、新しい事業が生まれるということは雇用の創出にもつながるため、こういった取り組みを継続してほしい。我々も協力したいと考えている。もし、23年については調査中という話だったが、前年とかの数字でも、把握している限りでよいので、創業に至った企業数はどのくらいか。割合を教えてください。

事務局

令和5年度の実績については、今調査中であるが、昨日の時点で分かっている部分としては、支援対象者が370人で、実際創業された方が41人と聞いている。ただ、こちらのフォローアップ調査は、アンケートベースになっており、回答者が100%回答する訳ではないため、そこは留意する点である。なお、この数字は、戸田市の商工会と創業・ベンチャー支援センター、戸田市のセミナーに参加した方の中で計算したものである。

結城会長

学生からの相談はどれほどあるか。

安田委員

オレンジキューブでの起業相談件数は、私の記憶では学生はいない。一人いたかなというレベルだったと思う。学生も起業に興味をもってくれるといいのだが。

黒井委員

2点あるが、1つは、今雇用とかが私の会社でも中小企業家同友会の中でもすごく大きなテーマになっており、現在いろいろな共同求人委員会を作っているいろいろな活動をしているが、合同企業説明会というのは、1回開催しておおよそ何社くらいの会社が出て、何人くらいの求職者が来て、そこから内定とか実際就職が決まった人はどのくらいいるのか。

事務局

データがないため、後日回答する。

黒井委員

やはり、私たちの中小企業家同友会も、共同求人委員会もいつもテーマになっているのは、開催することの告知をするのが難しい。告知したところで今学生の有効求人倍率は、4倍とかそういうレベルなので、やはり中小企業に興味を持ってもらえないといつも議論するが、なかなか答えが出ない形である。先月も一度大宮ソニックシティで開催して、企業は20社ぐらいで、大学ともいろいろコネクションを取りながら、みんなで協力して大学を回っているが、やはり実際にセミナー、応接に来てもらったのが、11名ほどである。そこは新卒であったため、まだこれから就職を実際に決める段階なので、結果は出てきていないが、戸田市でこういうことをやってもらえるのであれば、もっといろいろな形で発信できると、もう少しコアな人たちが興味を持ってくれるのではという感じがした。

あともう1点、22ページ、多様な働き方を推進する職場環境の整備で、これは私どもの企業が去年参加させてもらい、ものすごく良かった。6月25日も本当にいろいろな企業が参加してもらって、私たちは年齢が高くなってしまった経理財務のところの業務改善を行ったが、ものすごく効果が出て、今もかなり動いた形で、今は伴走支援という形でなく自走でやっているが、すごく年配の社員の意識が少し変わったと毎日感じる。どんどん戸田市の企業を紹介し、知ってもらえるととても良いと思った。以上。

結城会長

他によろしいか。では、次の柱 地域社会をつなぐ について説明をお願いします。

事務局
結城会長
結城会長

事務局より説明【柱Ⅲ 地域社会をつなぐ】

それでは、皆様から何かご意見・ご質問等はあるか。

よろしければ進ませてもらおう。

では最後、柱のⅣ、社会的責任の遂行について事務局から説明をお願いする。

事務局
結城会長

事務局より説明【柱Ⅳ 社会的責任の遂行】

柱のⅣはやや低調な印象を受けたが、事務局から何か、こういった事情があるのか等の分析などはあるか。SDGsと、40番の経営基盤強化、43番の商工団体支援事業、45番の人権、46番の環境への取り組みなどが達成できなかったということなので、割と何年も達成できていないものもあるようなので、今後どうすることを考えているのか。

事務局

39ページの施策38のSDGsについてはこのあとまた報告をさせてもらうが、埼玉県のSDGsパートナー登録者数自体は、県内で1,600社程度の登録があり、戸田市のパートナー数も、現時点で33、4程度まで増えている。我々どもとしては、引き続きSDGsの周知として、事業者はどうやったらSDGsのパートナー制度がリーチできるのかというところを考えており、今年度は5月の法人市民税の納税通知の封筒の中に、パートナー制度のチラシを同封させてもらうという取組みをスタートさせた。毎月事業者には必ず法人市民税、決算期に基づいて届いていくが、来年の4月までチラシを同封することで、市内の企業の約6,000通、全ての事業者には、SDGsパートナー制度のチラシが届くという試みを始めたので、手元に届いたら、委員の皆さんをはじめ、SDGsパートナーの登録をまずしてもらえたら幸いである。

プレートなど、様々なインセンティブがあり、他の市町村も全くやっていない取組みでいうと、SDGsの取組みを動画で無料制作をしてあげているというところがある。これは戸田市商工会の事業になるが、戸田市のパートナーになってもらったあとに、戸田市の商工会に動画制作を申し込みしてもらえれば、無料でSDGsのPR動画が作れるので、ぜひ積極的に利用してもらえればと思う。

なお、作成したPR動画は、埼玉県のSDGsアプリに、そのままの仕様で掲載できることになっており、市内に限らず、県内でも申込企業のSDGsの取り組みをPRできるという県との連携事業にもなっているので、これは引き続き積極的に事務局としてもPRしていきたいと思っている。

事業承継に関しても最後のその他でまた詳しく説明をするので、割愛する。その他、事業継続計画などは、そもそも制度を知らないという事業者もたくさんいると思うので、我々の初歩としては、一生懸命PRをさせてもらうというところに尽きる。その点は商工会とも連携しながら、なるべく情報が事業者にリーチして、使ってもらえるものは使ってもらって、数字としても伸ばしていけるような努力を引き続きさせてもらうというところで、回答になる。

結城会長

では、他に意見、質問等あったらお願いします。よろしいか。

企業の社会的責任については、関心を持っている学生が多いという実感があるので、学生に対するアピール材料としても使っていけるのではないかという感じを受けた。これまで1から4まで事務局から説明したが、何か全体を通じて質問したいことがあれば、最後に聞いて終わりにしたいと思う。よろしいか。

結城会長

では、これで議題1を終わりにし、次の議題 雇用2 戸田市の雇用対策の現状と課題について 議論をさせていただきたい。

【議題2】 雇用2 戸田市の雇用対策の現状と課題について

結城会長

では、事務局から説明をお願いします。

事務局

議題2「雇用2 戸田市の雇用対策の現状と課題」、事務局より説明

結城会長

前回の委員の皆さまのご発言に対し、詳細にお調べいただいたと思う。事務局の努力が分かる説明であった。皆さまから確認したい内容があったら発言をお願いします。

黒井委員

17ページのテーマの2に関してはとても良く感じた。SNSをうまく使っていくということは当然のことで、やはり行っていかなければならないと感じた。1点、資格の補助というのはとても良いかと思うが、私の会社もそうであり中小企業家同友会の中の企業もそうであるが、まず入り口に入ってもらう、エントリーしてもらうことがすごく難しく、大企業は多額の予算を使いいろんな媒体に広告を出して行っているが、現在求職者もIndeedとか手軽なところを入り口として入れるようになったので、中小企業も一定のコストで入り口を迎えるような手段も増えてきた。当然前回徳永委員らが発言したように、30%~40%の成功報酬を払うと良い人材をとれるが、なかなか長続きしないなど様々なことがあるが、まず求職者に市内の企業を知ってもらうという意味で、求人誌や求人サイトにかかるコストの補助があると、比較的わかりやすいと感じる。無料でも出せるが、いざ有料でやってみようと思うと手続きが面倒であったり、コストがかかるため、そういったところも、求職サイトや求人にサポートがあるととてもよいと感じる。

結城会長

学生と話をしていても、学生は世の中にどんな会社がありどんな仕事があるのかということほとんど知らないまま就職活動に入ってくるため、さまざまな手段を通じ、これから求職する人たちへアピールをしていくということができれば良いのではないかと感じた。他に意見や感想はあるか。

徳永委員

去年1年間直近の採用人数を調べたが、11人いた。そのうち7人が人材紹介であった。先ほどから言われている紹介手数料がそこそこかかっているためなんとかしてほしい。中小企業というのは知名度がない。だから戸田市でやっているようなことというのは全国等しくやっており、人の採用は競争になっているため、ここで議論してもなかなか成功するのは難しいように思う。ところが人材紹介にお金を出すと専門に業者が動く。私の会社のような知名度のない会社や何をやっているかわからないような会社でも、業者に頼むとやってくれる。だから一番、市に期待したいのは、今のIT技術者の補助金と同じように、建設業と製造業は補助金を出してもらえるとありがたい。ITばかり重点を置き、そこには補助金を出すが他の業種には出さないというのは不公平であり、一番困っているのは製造業や建設業であるから、そういうところに人が集まるようにさせたいのであれば、そこに補助金を投入すべきでないかと考えている。私の会社もそれ以外にデジタル化も社内で進めてきたが、デジタル化というのは限界がある。

合理化されるのは事務部門だけであり、あまり会社の儲けにはならないのである。会社に一番大事な部分は直接部門で、技術や製造や工事だから、製造業でもあり建設業でもあるが、そういった部門を強くしていかなければならない。そこは人を投入するしかないと思って、しっかり行っていきたい。そういったことでぜひ17ページの雇用人材確保の部分、この施策を強力に進めてほしい。

結城会長

雇用人材確保の施策を強力にという意見であった。

毎年労働市場に労働力を供給している側から考えても、学生のリソースが全て使い切られているという感じはないため、そういったところを引き出すような、マッチングが上手くいかない人々を上手く紹介できるような支援があると望ましいと感じる。

黒井委員

学生にさまざまな仕事の内容を知ってもらおうと、インターンシップやオープンカンパニーをどこの会社も行っているが、これにも人の労力がかかり、中小企業ではそれを受け入れることすらも拒むときもある。私の会社程度であれば何とか受け入れられるが、10人程度の会社では3日間の受入れなどは、誰が教えるのかといったところもあり、リソース不足で躊躇する企業も多いのではないかと思う。昔はインターンシップという形で1か月ほど受け入れていたが、最近ではオープンカンパニーというものが増えてきたのも、そういったところからであると思う。学生に知ってもらうことにもリソースがかかってしまうというのも中小企業の弱点であり、それも現実である。

そういった意味でも、徳永委員の意見に大賛成である。とても歯がゆいところがあり、そういったところを大学からもオプションとしていただいているが、それを企業がどう活かせるかというところがとても難しいと感じる。

結城会長

皆さん遠慮なく発言してもらえればと思うので。

私から一つだけ、資料についての質問なのだが、23ページで、女性職場環境整備補助金が出ていて、補助要件に中小企業であることとある。後ほど条例の話が出るかと思うが、中小企業というものをどういうふうに戸田市では捉えているか。条例改正をするときに、中小企業で収まらない、個人事業者もカバーしていくようなことを考えているということだったと思うが。

事務局

中小企業振興条例の中での規定としては、中小企業はもちろんだが、小規模事業者、中小商工事業者、個人事業主を総括して含むものとして解釈している。

結城会長

そうすると、戸田市内でいうとだいたいもう9割以上の事業者が該当するということになる。

今日は、この議題については実はたっぷり時間を取ってあるので、ぜひ要望でもかまわないので、まだ発言ない方も含め、ぜひ遠慮なく。

黒井委員	先ほどの17ページのところで既存の従業員への業務効率化、職場改善というところの、この市内業者のDX、AI、あとはSNSの効果的な活用を促進するための情報発信というのは、これは具体的にこれからまた考えていくイメージか。市の方からもそういったSNSを使った配信をというイメージが入っているか。17ページの2番の最初のところのSNSの効果的な活用を促進するための情報発信とは、具体的にどういうものなのか。
事務局	21ページの方にも、施策の検討案として挙げているDX、AI、SNSの活用に関するセミナーというのを市で主催して行っていくことと事例集を公開することで啓蒙することを考えている。今、全国的にこういった企業、こういった職種の企業がどのように活用しているというのを発信させてもらって、皆さんにイメージしてもらおうというのを今のところは考えているが、課題点に関してはこれから精査していきたいと考えている。
黒井委員	SNSも、やっぱり片手間でやるような時代じゃなくなってきていて、本当に専任の人がついて徹底的にやらないと中途半端で終わる。うちも一人、広報というのをやってやっているのだが、なかなかうまくいかない。今は代行業者みたいなのが出てきていて、そういったところをお願いするというのが、比較的即効性というか、効果というのは見えやすいというのをすごく感じている。例えば市とかの方でそういうサイトを作るというのはなかなか難しいのか。
事務局	現段階で必ずできないという回答ではないが、基本的な考えとして市役所のような公的な機関が一事業者の雇用の募集をできるかという、ほかの事業者との公平性もあるため、そういった部分を受け持てるのが、例えばハローワークのような機関になると思われる。この場でできる、できないという回答は控えさせていただきたい。
黒井委員	例えば、SDGsパートナーの認定企業とかを市の方で発信してくれるというのもすごくいいかなと思ったのだが、今事務局が言ったようにいろんな難しい部分があると思う。それこそSNSとか、今Instagramとかは、就職の情報として出していくのもすごく効果的だというデータも出ているが、1回広告を出すのに、5,000円とか10,000円ほどかかるため、SNSに対する補助金というのも、ひとつありかと思う。
結城会長	SNSに、補助金を通じた支援ができないか、そういった話だった。昨今では大学でもSNSを使った宣伝をやるようになっていて、かなり反響がある。広告出すのもばかしくなるくらいの反響があるので、若者がどういうメディアを見ているかというのを考えると、SNSは重要なのかなと感じた。

富岡委員

私も学生の人たち、若い人たちがどうやって情報をキャッチできるかということ考えたときにやっぱり一番強いのがSNSかなと思う。やっぱり今、Tiktokとか、Instagramから情報を得る方が多いのかなと思う。私もうちの会社で情報を発信するときに今まではホームページを主に使っていたのだが、そのあとFacebook、しかし今やFacebookすら見ないという話で。でもTiktokだと動画とかで難しいなというのはあると思う。これから大きくなっていく中学生、高校生の子たちもいるが、その子たちに対してどうやって、いろんな仕事があること、また戸田市にこんなに素晴らしい企業があるということのを伝えられるのだろうかというのを考えてみると、やっぱりSNS、Instagramを使うのがいいのかなという印象である。

昨年、さいたま市の方で、見沼区の小学校が行っている授業の中で、小学校2年生が、まち探検に行き、発表をオンライン上で行っていくというのがあり、仮想のまちを子供たちが作って、見学に行ったところについて発表していくという事例があった。大人が発信するというのもありだとは思いますが、今は中学生だと3Daysがある。

教育の部分にはなってくるかと思うのだが、中学生が実施する3Daysを活用して、地元の企業に3日間行って中学生が伝えるその企業の魅力をオープンでいろんな人が見られるような形にしておくと、これは行政が手を加えなくても、わりと実現可能なものではあるのかなというふう感じた。

結城会長

では24ページのこちらのスライドを見てほしい。事務局から事前に案内があったかもしれないが、この会議で委員の皆さんに意見交換をしてもらいたいということで、皆さんの事業状況の中でどういう雇用状況にあって、どういう課題を抱えているのか。もうすでに議論されているかもしれないが、改めて考えていることがあったら、発言をお願いします。それらを踏まえて、市に対する要望等自由に意見もらえるとありがたい。特にまだ発言のない方はどうか。

高橋委員

私どもはどちらかという大手の企業という形になるので、事例についてということで参考になればと思うが、実際に採用活動は人事部の方が行っており、詳細はまだお伝えできないが、実際ニュースリリース等で発表しているところベースで話すと、実は私どもも新入行員及び若手の給与の引き上げをだいぶ行った。私が会社に入ってから20年以上経ち、ずっと変わっていなかったが、ここでやはり大きく引き上げをした。というのもやはり我々の業界でも人手不足は喫緊の問題であり、やはり団塊の世代の皆さんが抜けてしまうので、氷河期に入ってきている。かといってこれまで途中でその分採用してきたかというあまりその部分も業界全体としては行ってこなかったものだから、空洞化が叫ばれているなかでやはりそういった人材の確保をしていかななくてはいけない。ただやはり我々をもってしても今売り手市場なので、なかなかその部分でのマッチングについては苦慮をしている。

先ほど黒井委員からも話があったが、学生に向けてはやはりミスマッチングを防ぐためにインターンシップであるとか職場経験であるとかというのも我々の方も対応をして、少なくとも学生の皆さんが就業した時のイメージとして使っていただくというところの努力は欠かさず行っているという状況である。先ほど中途についてもこれまではあまりという話であったが、最近では例えば専門分野についてであるとかそういったところについては中途の採用なども募集をかけて行っているというところである。

結城会長
徳永委員

他にはあるか。

先ほど去年の採用のことを言ったのだが、11名全員中途採用であった。新卒は一人もいなかった。私の会社は、あまり新卒に力を入れておらず、どのみち内定出しても後で断られるのではないかとあまり期待していない。人材紹介とかそういうところに力を入れているので、かなりお金をかけているのだが、去年だけでも、1,000万円以上払っている。もう1つ、外国人の採用も増えている。実は、工場に勤務する人の中で、日本人の割合はだんだん減ってきて、外国人の割合が増えてきている。理由は、日本人が入ってこないからで、国の方でもそういうところを見越して、外国人の海外実習生とか手厚くしており、うちの会社もそういう感じで海外実習生が増えている。今度、法律が変わって5年経ったら終わりというのがないので、残れるようにするのかどうかそこはわからないが、外国人も増えていくと思うので、ぜひ、外国人のあっせんとかそういうのも、戸田市の方で力を入れてくれるとありがたいなど。今、ここで出ている企業は、結構日本人の話ではないかと思っている。外国人も増えてきているので、そういうところのマッチングも考えてもらえればと思う。

ついでに言うと、うちの会社は賃金制度を今年変える予定であり、今の採用はお金勝負なので給料の高いところにみんな人は行ってしまいうし、休みが多くて残業が少ない会社にみんな集まってしまう。ところが、うちの会社みたいところはどうしても季節変動が大きくて忙しい時期があるものだから、完全週休二日にはならない。繁忙期になると土曜隔週で出たりとかがあって、そうになると全く応募者からすると魅力のない会社になり、人が集まらない。そこをなんとかクリアするために人材紹介を使っているのだが、外国人の方も何とかうまく採用できるような機会を作ってくれればありがたいと思う。以上。

廣瀬委員

当社の場合は、社員の半分以上がベトナム人であり、ITの会社である。皆さんの話を聞いて切実な思いがあるが、優秀な日本人はITだと大手企業に取られてしまう。いま30代前後の優秀なエンジニアは年収700万、800万で、40代前半だと1,000万を超えている。採用費も最低30から40パーセントかかる。コンサルティングファームに関してでいうと年収2,000万ぐらいだが、採用費100パーセントである。2倍払えといわれる。いわゆるお金持ち企業しか優秀な人は採用できないという状況で、当社はITコンサルティングの会社だが、45歳以上、最近だと、僕が57歳だが55歳以上に的を絞り、求人媒体で、大手メーカーの卒業生で最後の10年間どこかで頑張りたいというような心意気のあるコンサルタントを採用させてもらっているが、その人たちでも、900万以上の年収がかかる。ただ、最初の数名だけ媒体で採り、採用費30パーセント払ったが、その人たちの知り合いをリベラル採用で採用するかたちで今、人をどんどん増やしている。

他方、ベトナム人の採用については30歳前後のすごく将来有望なプログラマーをリベラル採用している。1人目を私の知人で引っぱり、2人目、3人目、4人目というのは、日本中に今、ベトナム人のITエンジニアがいるので、日本中から採用しており、戸田のITカンパニーだが、戸田のオフィスには私しかおらず、基本的には日本の5か所、札幌、東京、埼玉、名古屋、大阪あと次は福岡だが、全国から採用して、何とか開発をしている状況だ。一人目は媒体で30パーセント払うが、以降はその人たちの知り合いをどんどん採るところだ。人事戦略、給与戦略のところについては、僕らは給料が高い職業になっているので、各メンバーが年間発生させた利益の30パーセントをボーナスでキックバックするやり方を採用している。なので、800万、900万の年収の中核メンバーであれば、年度末に100万、200万のボーナスを払う。自分がサラリーマンで働きつつも、事業者のような動きで、いろいろな形で事業をクリエイトして会社に貢献できる動きをしてくれれば、事業の利益を30パーセントキックバックするということと、スピンアウトしたい場合は、僕らが資本を入れるという約束を、もう中核メンバーにはしているので、独立したい場合はグループ化をしようということで我々はいまホールディングカンパニーを作ろうとしているので、そういう動きをしないと今は採用が難しいという状況になっている。

結城会長

他の方がいかか。

ないようなので、この議題は終了とする。

全体の"その他"、資料26ページについて説明を事務局にお願いする。

事務局	<p>説明【景気動向調査について／令和5年度 事業承継・M&A支援を活用した地域経済活性化施策探求事業の報告／とだSDGsパートナー制度の報告／戸田市中小企業振興条例改正の検討について／第7期中小企業振興会議 今後のスケジュールについて】</p>
事務局	<p>本日予定していた議事等は以上となる。戦略プランの中では 我々が作る計画 というと、どうしても指標が成果指標ではなく活動指標になりがちであるとか、 達成していないのはなぜかと考えた時に説明がうまくできないとか、今日の 場で改めて感じたところである。 このプランもそろそろ改定の時期が近づいており、また皆さまからのご意見を いただくことになるかと思うのでよろしくお願ひしたい。 また、後半については、求人や人材紹介といったところで何か支援ができない かといった意見があったので、そこも含めてまた次の場で提案ができればと 思っている。 閉会あいさつ</p>
	閉会